小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹　広報誌　2026年4月発行

ぼやあ樹だより

今月も空き情報や小規模多機能の利用例などの広報誌「ぼやあ樹だより」をお送りさせていただきます。また、弊社ホームページでは、各事業所のニュースなども掲載しておりますので、ぜひご一読いただきますと幸いです。

空き情報　小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹　空き情報（2026年　4　月　1日現在）

ぼやあ樹の6事業所(新子安・神大寺・平川町・松本町・江ケ崎町・関内)の空き情報をお知らせ致します。
ご利用をご検討の際に、参考にしていただければと思います。

地域	事業所名	泊まり	通い	訪問
神奈川区	ぼやあ樹　新子安	◎	◎	◎
	ぼやあ樹　神大寺	◎	◎	◎
	ぼやあ樹　平川町	◎	◎	◎
	ぼやあ樹　松本町	△	◎	◎
鶴見区	ぼやあ樹　江ケ崎町	◎	△	◎
中区	ぼやあ樹　関内	◎	◎	◎

◎　空きあり
△　曜日等　要相談
×　満員(空き待ち)

LINE 公式アカウント

始めました！！
LINE アプリの「お友達追加」→「QR コード」から下記の QR コードを撮影して、ご登録お願いします☆

ぼやあ樹 Wキャンペーン開催！

生活保護　料金割引キャンペーン

【生活保護受給者の方限定】

2026年3月～4月にご利用開始となった方に限り、自費分(食費・宿泊費)を割引金額でご案内いたします。

同封の資料をぜひご覧ください⇒

お泊まり　料金割引キャンペーン

【要介護4・5および週4日以上泊まりの方限定】

2026年4月～9月にご利用開始となった方に限り、宿泊費を割引金額でご案内いたします。

《ご利用条件》①②両方
①要介護4または5
②週4日以上泊まり利用

同封の資料をぜひご覧ください

社長コラム

「希望をカタチに」　— Vol.2 —

代表取締役　石川 洋一

本コラムでは、「希望をカタチに」という理念が、
どのような出会いや想いから生まれてきたのかをお伝えしていきます。

看取りの現場にいると、
「生きる時間の長さ」ではなく、
「どう生きたか」がどれほど大切かを、
あらためて教えられる瞬間があります。
それは、大人だけの話ではありません。
あるご家族との出会いは、
私にとって忘れられないものとなりました。

その子は、生まれたときから
重い先天性の病気を抱えていました。
医師から告げられたのは、
「5歳まで生きられるかどうか分からない」という
厳しい現実でした。
人工呼吸器が必要で、
医療的ケアが欠かせない毎日。
病院で過ごす時間も多く、
決して平坦な道ではありませんでした。

それでも、ご両親の願いははっきりとして
いました。
「できるだけ、この子を家で育てたい」
医療的には難しい部分もありました。
それでも、その想いが揺らぐことはありません
でした。
病院の医師、訪問看護、地域の支援者。
多くの人が少しずつ力を持ち寄りながら、
その子は人工呼吸器を使い、
自宅と病院を行き来する生活を続けていきました。

家には、家族の声がありました。
笑い声がありました。
ときには、兄弟げんかもありました。
医療機器に囲まれていても、
そこには確かに、
「家庭としての時間」が流れていました。
誕生日には、小さなケーキを囲み、
家族で写真を撮り、
季節が変わるたびに、窓の外を一緒に眺めました。
その子の人生は、
決して「病気の子」という一言では語れないほど、
たくさんの愛情と時間に包まれていました。

そして、5歳の誕生日を迎える少し前。
体調がゆっくりと変化し始めました。
医療的には、入院という選択もありました。
けれど、ご家族の気持ちは変わりませんでした。
「最後まで、この子を家で見たい」
その言葉には、
覚悟と深い愛情がありました。
家族がそばにいて、
いつもの部屋で、
いつもの声が聞こえる場所で。
その子は、自宅で静かに息を引き取りました。
泣きながらも、お母さんはこう言われました。

「この子は、ちゃんと家で生きたと思います」

その言葉を聞いたとき、私はあらためて思い
ました。

看取りとは、
命の終わりの瞬間だけを支えることではない。
その人が、その家族が、
「どう生きたいのか」を支えることなのだと。
医療的に難しいことがあっても、
制度の壁があっても、
「無理です」と簡単に言わない。
どうすれば実現できるのか。
誰と力を合わせれば叶えられるのか。
考え続けること。
それが、私たちの役割だと思っています。

ぼやあ樹が大切にしている
「希望をカタチに」という言葉。
それは、特別な奇跡を起こすことではありません。

家で暮らしたい。
家族と一緒にいたい。
大切な人のそばで生きたい。
そんな当たり前の願いが、当たり前に叶う社会を
つくっていくこと。
小さくても確かな希望を、現実の形にしていく
こと。

これからも私たちは、
その一つひとつに向き合い続けていきます。

次回もまた、新たな「希望をカタチに」の物語をお届けいたします。

ぼやあ樹